様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２３年６月２３日現在

機関番号：４５２０６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2008～2010
課題番号：２０７２０２３５
研究課題名（和文）　ジャワにおける地縁に基づく社会関係の人類学的研究
研究課題名（英文）Anthropological Study of Social Relations Based on Local Community in Java
研究代表者
塩谷　もも　（SHIOYA MOMO）
島根県立大学短期大学部・総合文化学科・講師
研究者番号：９０４５６２４４

研究成果の概要（和文）：本研究は、ジャワにおける一コミュニティを対象とし、相互扶助活動の中心的な機会である通過儀礼とコミュニティ活動を分析することで、二者関係を中心に形成されるとされてきたジャワの地縁に基づく社会関係を再考するものである。今日では、イスラムの影響力の強まりと都市化の影響により、儀礼とコミュニティ活動は大きく変化している。中部ジャワでの現地調査に基づき、地縁に基づく社会関係の形成・維持の過程を明らかにし、その結果として地縁に基づく集団や集団意識が存在することを結論づけた。

研究成果の概要（英文）: This study re-examines the definition of community or local group in Java. In Java, rites of passage and local community activity are important occasion for mutual help based on the reciprocity rule, which creates and maintains social relations among neighbors. Community activity, including rites of passage, is changing due to the influence of Islam Revival and the social change. I conducted fieldwork in central Java and pointed out that the importance of community remains the same and the local group exist in Java.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学民俗学・文化人類学
キーワード：文化人類学、コミュニティ、インドネシア、ジャワ、イスラム、女性

１．研究開始当初の背景

(1) これまでジャワや東南アジアを対象とした社会関係研究では、双系の親族体系を背景として、集団のあいまいさや二者関係に基づくネットワークの重要性が指摘されてきた。

(2) このようなゆるやかな結びつきに基づく社会関係を記述するためには、親族に注目してその広がりとして、地域社会を記述する方法がとられてきた。なかでも注目を集めてきたのは、地域の人々を中心として行なわれる儀礼とコミュニティ活動であった。

(3) これまで調査対象としてきた中部ジャワの一コミュニティの事例からは、地縁に基づく関係が、相互扶助、助ける行為を中心に取り結ばれてきたと考えられる。特に、通過儀礼の際に隣人女性が行なう料理の手伝いはその中心であり、その参加の方法や人々の意識を探ることで、地縁に基づく社会関係を考察しうる。

(4) 二者関係や親族に注目した研究に対し、地縁を中心として社会関係を考察することは、新たなジャワの社会関係像を提示することにつながる重要性を持つものである。

２．研究の目的

(1) 本研究は、地縁に基づく人々のつながりを分析することで、ジャワの社会関係を明らかにすることを目的とする。

集団の範囲が明確でなく、結びつきがゆるやかであるとされてきたジャワ社会において、地縁に基づく集団と集団意識がいかに形成・維持されているかを参与観察、および聞き取り調査により、明らかにすることを目指す。また、現在行なわれる活動に加え、通時的な変化も視野にいれた資料収集・分析を行なうことを目的とする。

(2) 地縁に基づくコミュニティ活動は女性が担うものが多い。そのため、とくに女性間のつながりに注目し、日常のなかでの結びつきのあり方にミクロな視点で着目することで、女性間ネットワークが地縁に基づく関係に及ぼす影響を分析する。ネットワークについては、公的なものに加え、私的な相互扶助活動も視野にいれた分析を行なう。また、男性が行なうコミュニティ活動についてもデータを収集し、両者を比較することで、さらに特徴を明確にする。

(3) 今日のインドネシアおよび東南アジアにおいては、イスラム復興の影響が様々な領域に影響を及ぼしており、それは調査地も例外ではない。宗教講話会、モスク青年会、儀礼など地域単位で行なわれているイスラムに関する活動を分析対象に含めることで、それらを通じた地域の人々のつながりについて明らかにする。

この分析を行なうことで、ミクロの視点からイスラム復興に基づく現象をとらえ、その働きによって、地縁に基づく社会関係が受ける影響を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

(1)インドネシアにおいて、現地調査を 2009 年３月 5 日～3 月 24 日、2009 年 12 月 13 日～1 月 8 日、2010 年 12 月 11 日～2011 年 1 月 1 日に 3 回実施した。調査を行なったのは、中部ジャワ州スラカルタ市周辺、ジョグジャカルタ特別州、ジャカルタ特別州である。

主に地域単位で行なわれる相互扶助活動、女性団体などのコミュニティ活動、イスラムに関する活動を中心とした参与観察、インフォーマントのもとを訪れての聞き取り調査による資料収集を行なった。

また、現地で出版されている調査テーマに関する文献資料を実施し、関連資料の収集を行なった。

(2) インドネシアでの現地調査中、スラカルタ市とジョグジャカルタ特別州の大学と研究機関、ジャカルタ特別州では、国立図書館インドネシア科学院等の研究機関を訪問した。その際に現地の研究者との研究に関する情報交換、調査結果に関する議論等を行ない、関連資料の収集も実施した。また、関連テーマについての研究発表にも参加した。

(3) インドネシアおよび周辺社会に関する地縁、イスラムが社会関係に及ぼす影響、女性間のネットワークに関する先行研究の文献調査を実施した。関連するテーマに関する研究会、学会等にも参加することで、情報収集を行なった。

４．研究成果

(1) 現地調査を通じて、これまでコミュニティ活動の中で中心となってきた儀礼に大きな変化が起こっていることが明らかになった。変化は、大きく都市化等の社会変化によるもの、イスラム復興の影響によるものに分けられる。

前者の変化は、これまで相互扶助活動に支えられてきた儀礼の商業化、後者の変化はよりイスラムの要素を強調し、非イスラム的とされる要素を削除するという形で起こっている。

この変化の実態と及ぼす影響については、2010 年の博士学位論文「ジャワにおける共同体と儀礼：女性の役割と儀礼変化を中心に」で詳しく記述･分析している。

(2) 調査地では、都市化等の影響により、地域単位で行なわれる相互扶助活動が減少し、かつ規模が縮小している。以前に実施した現地調査の資料、聞き取り調査の結果を比較することで、その変化の過程を明確にした。

その一方で、地域単位で行われる活動としては、宗教講話会などイスラムに基づく活動

が活発化しており、それを通じて人々のつながりが保たれている。かつての儀礼の際の相互扶助と同様に、ある意味参加が義務のように意識されている面があることも、現地調査の結果明らかになった。

(3) 宗教講話会など、地域単位で行なわれるイスラム関連活動が活発化する一方、イスラムの派ごとのグループ化という現象も出てきている。例えば、調査地においては、地域単位で行なわれてきた断食月前の儀礼が、地域的なつながりを越えて、同じ派の単位で行なわれるなどの変化も出てきている。派に基づくつながりは、地縁関係をこえて広がりを持ち、影響力を及ぼすようになってきている。

(4) 定期的に行なわれている地域活動には、講組織とそれにともなう社会活動がある。講組織は男女ともに存在するが、女性が参加するものの方が、男性が参加するものに比べて種類が多く開かれる頻度も高い。

宗教講話会も男女それぞれを対象としたものがあるが、やはり女性が参加するものの方が活動が活発で、参加者も多い。また、日常のつながりにおいても、細かな面で女性同士の相互扶助活動は行なわれている。

(5) イスラムの影響力の強まりの背景には、イスラム復興というマクロな動きに加え、隣人を中心とした周囲の人々の影響というミクロな影響が及ぼすものも決して小さいものではない。

例えば、儀礼を行なう際にイスラムにあわせた形にするのは、隣人を意識してという面があり、その決定には女性の判断が影響力を及ぼしている。

また、儀礼のような非日常的な場面だけでなく、日常のなかでも一見するとイスラム復興の影響と見えるヴェールの着用等の現象等については、背景に地縁に基づいた関係が複雑に絡み合っている面がある。この点については、2010 年の論文「ジャワにおけるヴェール着用者の増加とその背景」において、詳しい分析を行なっている。

(6) 前述のように、これまでコミュニティ活動の核と見なされてきた儀礼は、都市化とイスラム復興の影響によって形式が変化しているが、現地調査の結果からは、儀礼の核ともいえる料理のやり取り、料理を共食することは、現在も形を変えて行なわれていることが明らかになった。

料理が地縁に基づく関係のなかで果たす役割について考察していくことは、今後の課題の一つであると考えられる。食を核にして、人々のつながりについての考察を深めていくことにより、ジャワの社会像がより明確になる可能性がある。

(7) 本研究では儀礼やコミュニティ活動に関するデータ収集・分析を現地調査に基づいて、広く行なった。その結果として、これまでの先行研究で強調されてきた二者関係に基づく社会関係に対し、現地調査の様々な事例から、地縁に基づいた緩やかな集団・集団意識が存在していることを指摘した。

(8) 現地調査の結果、調査地において、様々な背景から影響力を強めているイスラムが、地縁関係においても影響を与えていることが明らかになった。

今後は、このイスラムの影響力をさらに追いながら、ジャワにおける社会関係の変化について考察を行なうことが課題である。それは、相互扶助に対する考え方や実践についても、影響を与え、さらには地縁に基づく社会関係にも影響を及ぼしうるためである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①塩谷もも、ジャワにおけるヴェール着用者の増加とその背景、東南アジアのイスラーム ISEA プロジェクト成果論文集、査読無、2011、183-200

②塩谷もも、ジャワのスラマタン儀礼に関する一考察、ふとした？を探る：私たちの文化人類学（論集岡田ゼミの会）、査読無、2008、6-19

〔学会発表〕（計 2 件）

①塩谷もも、ジャワの儀礼に見る地縁に基づく社会関係の変化、日本文化人類学会中四国支部、2010 年 11 月 13 日、岡山大学

②塩谷もも、ジャワの儀礼変化にみるイスラーム意識の高まりと「効率化」：女性に焦点をあてて、南山大学アジア・太平洋研究センター「インドネシア・イスラームのダイナミズム」セミナー、2009 年 2 月 22 日、南山大学

〔図書〕（計 2 件）

①日本文化人類学会編、丸善株式会社、文化人類学事典、2009、（塩谷もも「コミュニティ労働」項目）、214-215

②塩谷もも、東京外国語大学博士学位論文、ジャワにおける共同体と儀礼：女性の役割と儀礼変化を中心に、2010、254

６．研究組織

(1)研究代表者
塩谷　もも(SHIOYA MOMO)
島根県立大学短期大学部・総合文化学科・講師
研究者番号：90456244

(2)研究分担者　なし
(　　)
研究者番号：

(3)連携研究者　なし
(　　)
研究者番号：